



グリーンウェーブ

編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課
南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-52-1359
TEL 0993-22-6422

クルクマ主産地交流会in川辺で活発な情報交換！

7月3日、クルクマ主産地交流会in川辺がJA鹿児島県会館で開催され、全国の生産者、市場や関係機関総勢65名参加しました。

川辺の産地事例紹介、各市場の情勢報告、『栽培課題や一般消費者への認知拡大』をテーマにしたパネルディスカッション（各産地代表者がパネラー）、夜は交流会で情報交換を行いました。翌日7月4日には、川辺の現地視察を行いました。

今後、生産者、市場、実需者、関係機関等が一体になって「クルクマの日」の制定等、一般消費者へ向けたクルクマの認知拡大に取り組むこととなりました。

2年後の次回は、JAあいち中央 碧南（愛知）で開催予定です。



JA南さつま
花き部会長
東耕太さんが
産地事例を発表



各産地の代表者
がパネラーとなっ
てパネルディスカッ
ション



現地視察

【参加した産地】

- ・ JA南さつま(鹿児島)
- ・ JAそお鹿児島(鹿児島)
- ・ 沖永良部花き専門農協(鹿児島)
- ・ JAとぴあ浜松(静岡)
- ・ JA糸島(福岡)
- ・ JAあいち中央碧南(愛知)

DELIVER THE SUMMER 2025年版 かわなべの“クルクマ”

TALL 80~50cm

ブルーベリーレッド	シャローム	サリー	フェアリーピンク	チェンマイライトピンク	ホワイト1271

MIDDLE 60~30cm

エメラルド	エメラルドチョコゼブラ	エメラルドパロッド	キャンディQueen

SHORT 50~20cm

アイスジュニア

お届け時期
5月中旬~10月
本土最南端の鹿児島県
その薩摩半島に位置する
南九州市川辺町
タイ原産のクルクマを
小さな町から全国へ向けて
11名の部会員で
大切に育てています

★お問い合わせ先★
南さつま農業協同組合
川辺支所
〒897-0215
鹿児島県南九州市

ピーマンのIPMについて

1 はじめに

IPMとは「総合的病害虫・雑草管理」の略で、環境への負荷を低減しつつ、農作物の収量や品質を確保し、様々な防除手段を組み合わせ、病害虫等の発生を抑制する管理方法のことです。

(1) 耕種的防除

抵抗性品種の使用、ほ場の衛生管理、土づくり等栽培管理による防除

(2) 物理的防除

太陽熱土壌消毒や防虫ネット、粘着トラップ等物理的障壁による防除

(3) 生物的防除

天敵昆虫や生物農薬等を活用した防除

(4) 化学的防除

化学農薬を使用するが、天敵昆虫等に影響のない(少ない)農薬を選択した防除

2 管内の天敵導入の取組状況

管内のピーマン農家で取り組まれている事例を紹介します。

○タバコカスミカメ

成虫は体長3mm程度のアザミウマやコナジラミ等を捕食する益虫で、日本全国に分布しています。特に西南暖地では土着天敵として利用できるほど多く生息しています。



(タバコカスミカメ)

ゴマやクレオメ等のタバコカスミカメを誘引・増殖しやすい植物(バンカー植物)でタバコカスミカメを増やし、ハウス内に導入します。

○スワルスキーカブリダニ

成虫は体長0.3mm程度の乳白色・淡黄色で、アザミウマやコナジラミ、チャノホコリダニ等を捕食します。花粉等を餌にして増殖できるため、植物での定着性が高く、予防的に放飼できます。



成育適温は28℃で、低温では活動が鈍るので夜温15℃以上を確保するようにします。

○アブラバチ

アブラムシに寄生するアブラバチ等が数種類おり、コレマンアブラバチはモモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、マメアブラムシ等に寄生します。



(コレマンアブラバチ)

寄生されたアブラムシは死亡して、体長1mm程度の淡褐色の球形のマミー(アブラムシが外皮を残してミイラ化した状態)になります。アブラバチは寄生したアブラムシの体内で成長し、成虫になってマミーから出てきます。



(マミー)

3 天敵使用の注意点

天敵は害虫防除に有効な手法ですが、放飼時期や農薬使用・環境などに注意が必要です。

天敵は害虫が増える前に放飼します。既に増えた場合、天敵に影響の少ない農薬でいったん防除し、害虫密度を下げるようにします。

農薬は天敵に影響のないまたは少ない農薬を使い、温度等の環境条件にも注意が必要です。

また、天敵が定着・活動しているか定期的な観察も必要です。

4 フェロモン剤

○コンフューザーV

性フェロモンで直接の殺虫作用はありませんが、コナガやハスモンヨトウ、オオタバコガ等の交尾を阻害して、次世代の発生を少なくします。対象害虫が高密度の場合、殺虫剤との併用が望ましいです。

対象となる品目や害虫に応じて、数種類のフェロモン剤があるので、用途に応じて選択します。

5 さいごに

天敵利用で害虫被害が減れば、防除回数が減り肥培管理や収穫に時間をかけられるとともに、食品の安心安全につながります。

環境制御技術導入と併せてIPMを推進し、産地の維持強化に努めましょう。

指宿農業を支える農業者組織

1 指宿市指導農業士会の活動紹介

(1) 組織の概要

県では、優れた農業経営を実践し、青年農業者の育成に対する熱意と指導力のある者を「指導農業士」として知事が認定しており、指宿市指導農業士会として、令和7年度で14名が在籍しています。年間の活動回数は20回を超え、地域農業を支える青年農業者の育成に大きく貢献しています。

(2) 特徴的な取り組み

指宿地域では、各種研修の際に指導農業士の体験談を添えるようにしています。受講者からは、理論的な話に加え実務の情報も聞けることから、大変わかりやすいと好評です。

新規就農者の就農形態が多様化する中、地域農業の未来を盛り上げていけるよう、これからも活動を続けていきます。



←現地圃場での説明の様子

室内検討会→



2 ファームコネクト指宿の活動紹介

(1) 組織の概要

県では、経営や労働管理に優れ、発言力・実行力のある女性農業者を女性農業経営士として知事が認定しています。指宿市の女性農業経営士会は、平成24年に発足、令和4年度にファームコネクト指宿に名称変更して、現在10名で活動しています。会員相互の情報交換と資質向上、若手女性農業者との交流を目的に、それぞれの経営参画を進めながら、新規就農・若手女性農業者の活動の後押しができるように活動しています。

(2) 「よか・余暇ライフの集い」(若手女性農業者との交流会)の開催

年間活動計画の中でも、大きなイベントとして若手女性農業者との交流会を開催しています。令和7年度は、直売所やマルシェ販売でのPOPやチラシ等作成セミナーを企画し、託児もできるようにして開催しました。演習しながら交流もでき、参加者が元気の出る会となりました。



よか余暇ライフでの一幕

3 AGRI倶楽部指宿の活動紹介

(1) 組織の概要

AGRI倶楽部指宿は、青年農業者相互の情報交換や資質の向上、地域農業の発展に寄与することを目的に昭和41年に組織されました。現在10名が在籍し、多様な活動を展開しています。

(2) 特徴的な取組

ア 現地ほ場勉強会

今年度より、クラブ員の現地ほ場を巡回し、管理状況を検討する勉強会を実施しています。プロジェクト活動や栽培管理について栽培者の説明を聞き、技術的な意見交換の場となるなど良い機会となっています。

イ 新規就農者支援

地域の若手農家との交流を図り、今後の地域農業を担う世代同士で支え合う環境づくりを推進しています。今年度は、就農1～3年目を対象に「若手農家交流会」を開催し、新たな入会希望者が出るなど活気のある会となりました。



現地ほ場勉強会(施設オクラ)の様子

秋冬期防霜について

1 はじめに

秋冬期防霜は、秋整枝後の気温が高めに推移して耐凍性を獲得しにくい年、内陸部や冷気の停滞しやすい所、品種では「ゆたかみどり」、「さえみどり」、「あさつゆ」等の早生品種、中晩生品種でも上位芽が主体となった茶園（更新茶園等）では必要とされます。

2 冬芽の種類別耐凍性

凍害発生をみると上位芽が頂芽、下位芽より被害率が高いです。これは、上位芽の水分含有率が



高く凍りやすくなっているためと考えられます。

3 秋冬期における品種別耐凍性の評価

県農業開発総合センター茶業部で、新品種について秋冬期における耐凍性の強さを評価しましたので参考にしてください（表1）。

4 実施時期と設定温度

実施時期は、初霜期から平均気温が恒常的に10℃を下回る12月下旬までを目途とします。

設定温度は、11月は1～2℃、12月は0℃を目安とします。

耐凍性情報は11月頃から農業開発総合センターのホームページに掲載されますので、秋冬期防霜に御活用ください。

表1 秋冬期における品種別耐凍性の5段階評価

秋冬期における耐凍性の強さ	新品種	県奨励品種（優良品種）
弱	なんめい	ゆたかみどり さえみどり あさつゆ
やや弱	はると34	
中	せいめい さえあかり	
やや強		やぶきた おくみどり
強	きらり31 なごみゆたか	あさのか (さきみどり) かなやみどり はるみどり

マンゴーにおける新梢抑制の効果について

1 産地の現状・課題、目標、対策

(1) 現状

指宿のマンゴーは、硬プラハウスで栽培されており、周年被覆されているため、秋期のハウス内温度が高く、新梢の停止が遅れ、その後の発蕾・開花の遅れやバラツキなどがしばしば発生します。

(2) 課題と目標

新規登録された新梢抑制剤を活用し、秋期の新梢停止促進を図り安定生産を目指します。

(3) 対策

8月の収穫終了後のせん定枝から発芽する第一新梢節硬化時に、ターム水溶剤を散布し、その後の第二新梢節の再発芽状況を調査しました。（実証区：散布あり、対照区：散布なし）

2 活動成果・課題

(1) 成果

ア ターム水溶剤散布後18日目となる10月8日時点で、実証区では新梢の発生がほとんど見られませんでした。対照区では全ての第一新梢節から第二新梢節の発生が確認されました。

イ ターム水溶剤散布後42日目となる11月

1日時点で、実証区では第二新梢節の発芽率は50%にとどまりましたが、対照区の第二新梢節の発芽率は100%となりました。以上から、ターム水溶剤による第二新梢節の発芽抑制効果が確認できました。

ウ その後の発蕾について調査した結果、実証区が36.7%で対照区が33.3%とターム水溶剤散布区の方が3.4%とわずかに高くなりましたが、開花については、両区ともバラツキが確認されました。

エ 以上の結果から、ターム水溶剤による新梢抑制効果は確認できたものの、発蕾や開花に及ぼす影響については、判然としませんでした。

(2) 残された課題

ターム水溶剤散布が発蕾や開花に及ぼす影響の確認が必要となりました。

【散布18日後の状況】



(実証区)



(対照区)